



追悼 故 倉石 晋 教授

倉石先生は平成五年二月二日肺繊維症による肺炎のため享年六十一歳で亡くなりました。長い間新キャンパスでの研究生活を夢見られていた先生の研究室は亡くなられた翌日、主なきまま移転しました。先生は昭和五十二年発足間もない総合科学部に東京大学より移られ、以来生物学教育並びに植物科学研究者の指導にあたられました。「激務ではあるが研究一筋では得られない幅広い知識が得られる」と一般教育を御自身の研鑽のために活用されてきました。ノートを持って講義するのを旨とせず、複雑な化合物の構造式も全て諳んじて講義に向かわれました。研究の指導でも、その該博な知識を基礎に、新しい現象の把握と展開を目指されました。御専門は微量で劇的な作用を示す植物ホルモン。分析機器を駆使したホルモンの微量定量法の開発に執念を燃やされました。日本では数少ない水分環境と生長の研究を手がけられ、その研究はマングロープ林の再生研究へと発展しました。一度伐採すると植林が困難で深刻な環境破壊となっているマングロープ林では、伐採すると土が変化して元の樹種を植林しても成功しないことをつきとめられ、タイやインドネシアのマングロープ林再生に多大の貢献をされました。

夏休み先生の八ヶ岳の別荘に学生ともども招かれ、八ヶ岳山頂の美しい高山植物の名前を教えて頂いた楽しい思い出が残っています。道半ばで倒れられた先生の御無念、察するに余りあります。安らかにお眠り下さい。

(総合科学部自然環境研究講座 櫻井直樹)

